(仮称)新・野洲クリーンセンター施設整備に係る

生活環境影響調查 中間報告書

(概要版)

野洲市 野洲クリーンセンター整備室



調査の実施状況

	区分						平成2	4年度	į					平月	成25年	三度
	心 ガ	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
	地上気象	1														
	上層気象															
	大気質															
	騒音・振動・低周波音															
	悪臭															
	水象															
	水質汚濁の															
	底質 告 地下水 範															
現況調査	地下水 範囲															
調査	土壌	. – –														
	動物															
	植物															
	生態系						 									
	景観	1				 - -										
	地盤															
	人と自然との触れ合い活動の場															
	廃棄物															
	温室効果ガス															
	文化財															



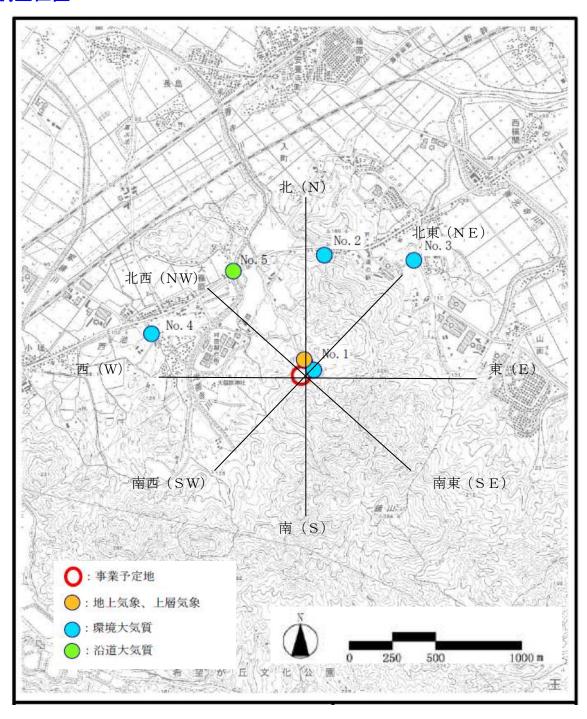
上層気象観測



生態系観測

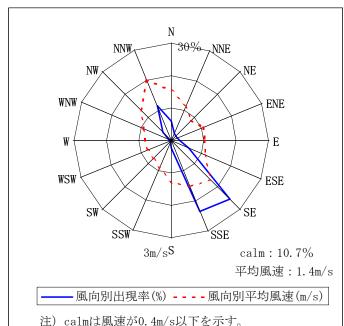


調査位置



地上気象・上層気象・大気質調査地点位置図

地上気象調査結果



5月から8月にかけて事業予定地における風向 は、「南東方向」からの風が多くみられました。

また、風向・風速と日射量、放射収支量調査結 果を組み合わせた風向別の大気安定度出現率 (P4) をみると、大気安定度Aの出現率は8.4% であり、北よりの風の場合に多く出現していまし た。

また、逆に大気安定度G(安定)の出現率は、 20.2%であり、南から南東よりの風の場合に多く 出現していました。

つまり、多く見られた「南東方向」からの風の 場合は、「排ガスからの影響は小さくなる状態」 が多く出現していたものです。

T I	目		風向	・風速		口心	月積算	
	, н	平均風速	最多風向	最	大	月積算 日射量	放射収支	
		十均風迷	取多風門	風速 風向		- 7.7 -	量	
月		m/s	16方位	m/s	16方位	$\mathrm{MJ/m}^2$	$\mathrm{MJ/m}^2$	
	5月	1.6	SE	5.8	NNW	545	-58	
平成24年	6月	1. 5	SE	4.8	NNW	487	-52	
十八人24十	7月	1. 4	SSE	5. 2	SSE	535	-37	
	8月	1. 5	SE	4. 5	SSE	605	-53	

注:月積算日射量、月積算放射収支量とは、1時間ごとの測定データの1ヶ月 あたり合計を示す。

風速(U)		日射量(7	kW/m^2		放射	収支量(Q) k	W/m^2
m/s	T ≧ 0.60	0.60>T ≥0.30	0.30>T ≥0.15	0.15>T	Q≧-0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040>Q
u < 2	A	A-B	В	D	D	G	G
2≦u<3	A-B	В	С	D	D	Е	F
3≦u<4	В	B-C	С	D	D	D	Е
4≦u<6	С	C-D	D	D	D	D	D
6≦u	С	D	D	D	D	D	D

注)表中の大気安定度は、A:強不安定、B:並不安定、C:弱不安定、D:中立、E:弱安定、F:並安定、G:強安定。A-B、B-C、C-Dはそれぞれ中間の状態を示す。 資料:窒素酸化物総量規制マニュアル [新版] (公害研究対策センター(2000)、環境庁大気保全局大気 規制課)

大気安定度とは

大気の状態(大気の混合の状態)を表す指標で、上昇気流、下降気流により大気の混合が活発に行われる状態を不 安定といい、その逆(大気の混合が活発でない状態)を安定、その中間を中立といいます。大気安定度が不安定な場 合、下図に示すとおり、煙突からの排ガスによる地表での影響は大きくなります。

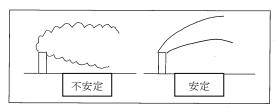


表 4.1.1-7 大気安定度階級別出現頻度(単位:回)

			/\ X\	女疋及	LPE MXX	ищо	则汉	(千匹	. 🖾		
	気安定度	A	AB	В	BC	С	CD	D	Е	F	G
風向 Calm	風速階級(m/s) 0.0 ~ 0.5	1	17	44	0	0	0	186	0	0	65
NNE	0.5 ~ 1.0	6	4		ŏ		_		ŏ		
	1.0 ∼ 2.0	14	7	7	0				0		
	2.0 ∼ 3.0	0	3	1	0						0
	3.0 ~ 4.0	0	0	0	0						0
	4.0 ~ 6.0 6.0 ~ 8.0	0	0		0				0		0
	8.0 ~	Ö	0	0	0						ő
NE	0.5 ~ 1.0	4	9	10	ő						
	1.0 ∼ 2.0	8	6	1	0				0		3
	2.0 ~ 3.0	0	0		0						
	3.0 ~ 4.0 4.0 ~ 6.0	0	0		0						
	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	ŏ	ŏ		0						ő
	8.0 ~	0	Ö		0						
ENE	$0.5 \sim 1.0$	0	7	4	0				0		
	1.0 ∼ 2.0	12	11	3	0				0		
	2.0 ~ 3.0 3.0 ~ 4.0	0	1 0	0	0						0
	4.0 ~ 6.0	ő	ő		0						0
	6.0 ~ 8.0	ŏ	ŏ		ő				ŏ		
	8.0 ~	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0.5 ~ 1.0	2	. 5	8	0				0		8
	1.0 ~ 2.0	10	13	3	0				0		2
	2.0 ~ 3.0 3.0 ~ 4.0	ŏ	1 0	Ô	ő				0		0
	4.0 ~ 6.0	ő	Ö	0	0				ő		ő
	6.0 ∼ 8.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-	8.0 ~	0	0	0	0	0		0	0	0	0
ESE	0.5 ~ 1.0	1 14	14	10	0				0		11
	1.0 ~ 2.0 2.0 ~ 3.0	14 0	15 2	11	0		0		0		18
	2.0 ~ 3.0 3.0 ~ 4.0	0	0	1	0				0		0
	4.0 ~ 6.0	ő	0	Ô	0				0		
	6.0 ∼ 8.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.00	8.0 ~	0	0	0	0		0	0	0		0
SE	0.5 ~ 1.0	0	8	11	0				0		34
	1.0 ~ 2.0 2.0 ~ 3.0	24	39 44	37 40	0		0		0 5		157
	2.0 ~ 3.0 3.0 ~ 4.0	0	99	12	4		0		1	26 0	0
	4.0 ~ 6.0	0	0	0	0	0	2	9	0	0	0
	6.0 ∼ 8.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
con	8.0 ~	0	0	0	0				0		0
SSE	$\begin{array}{ccc} 0.5 & \sim & 1.0 \\ 1.0 & \sim & 2.0 \end{array}$	2 11	4 21	4 11	0		0		0		79 112
	1.0 ~ 2.0 2.0 ~ 3.0	0	20	8	0		0		4		0
	3.0 ∼ 4.0	0	0	4	1	3	0	28	16	0	0
	4.0 ∼ 6.0	0	0	0	Ö		0	13	0	0	0
	6.0 ∼ 8.0	0	0	0	0		0		0	0	0
	8.0 ~	0	0	0	0				0		0
S	$\begin{array}{cccc} 0.5 & \sim & 1.0 \\ 1.0 & \sim & 2.0 \end{array}$	0	6	3	0		0		0		8 14
	2.0 ~ 3.0	ő	1	0	ŏ		ő		ŏ		0
	3.0 ∼ 4.0	0	Ö	1	0	0	0		0		0
	4.0 ∼ 6.0	0	0	0	0						0
	6.0 ~ 8.0	0	0	0	0				0		0
SSW	8.0 ~ 0.5 ~ 1.0	0	0	0	0		0				0
55#	1.0 ~ 2.0	1	1	9	0				0		3
	2.0 ~ 3.0	ô	ô	ő	ŏ				ŏ		ŏ
	3.0 ∼ 4.0	0	0	0	0	0	0	0			0
	4.0 ∼ 6.0	0	0	0	0				0		0
	6.0 ~ 8.0	0	0		0						0
SW	8.0 ~ 0.5 ~ 1.0	0	0		0						
5#	1.0 ~ 2.0	1	0	0	0				0		
	2.0 ∼ 3.0	ô	ő	Ö	ŏ						
	3.0 ∼ 4.0	0	0	0	0				0		
	4.0 ∼ 6.0	0	0	0	0				0		
	6.0 ~ 8.0	0	0	0	0				0		
WSW	8.0 ~ 0.5 ~ 1.0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
mon.	1.0 ~ 2.0	0	1	0	0	0	0	0			0
	2.0 ~ 3.0	ő	Ô		ő						
	3.0 ∼ 4.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4.0 ~ 6.0	0	0		0						
	6.0 ~ 8.0 8.0 ~	0	0		0						
W	8.0 ~ 0.5 ~ 1.0	2	0		0	_					
_	1.0 ~ 2.0	1	1		0						
	2.0 ∼ 3.0	Ö	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3.0 ~ 4.0	0	0		0						
	$\begin{array}{cccc} 4.0 & \sim & 6.0 \\ 6.0 & \sim & 8.0 \end{array}$	0	0		0						
	6.0 ~ 8.0 8.0 ~	0	0	0	0						
WNW	0.5 ~ 1.0	2	2	2	0	0	0	4	0	0	3
	1.0 ~ 2.0	2	5	0	0	0	0	3	0	0	1
	2.0 ~ 3.0	0	0		0						
	3.0 ∼ 4.0	0	0		0						
	4.0 ~ 6.0 6.0 ~ 8.0	0	0		0						
	8.0 ~	Ö	0		0						
NW	$0.5 \sim 1.0$	3	6	9	0	0	0	11	0	0	6
	1.0 ∼ 2.0	25	13	6	0	0	0	4	0	0	3
	2.0 ~ 3.0	0	3	1	0				0		0
	3.0 ~ 4.0	0	0		0						0
	4.0 ~ 6.0 6.0 ~ 8.0	0	0		0						0
	8.0 ~	Ö	0		0						
NNW	$0.5 \sim 1.0$	2	9		0	0	0	25	0	0	7
	1.0 ∼ 2.0	53	46	11	0	0	0	18	0	0	14
	2.0 ∼ 3.0	0	31	19	.0		0		3	3	0
	3.0 ∼ 4.0	0	0		13				1	0	
	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	0	0	0	0	17	6		0	0	
	8.0 ~ 8.0	Ö	0	0	0				0		Ö
N	$0.5 \sim 1.0$	1	15	9	0				0		
	1.0 ∼ 2.0	39	29	8	0	0	0	11	0	0	3
	2.0 ∼ 3.0	0	16	7	0	2	0	3	2	0	0
	3.0 ∼ 4.0	0	0		2	0	0		0		0
	4.0 ~ 6.0 6.0 ~ 8.0	0	0		0		0				0
	6.0 ~ 8.0 8.0 ~	0	0	0	0		0		0		0
大気安定度	別出現数	244	440		20		8		32		588
	別出現頻度(%)	8.4	15. 1	11.8	0.7	2.5	0.3	38.1	1.1	2.0	20. 2

大気質調査結果

事業予定地周辺における環境大気質 (No. 1~No. 4)、沿道大気質 (No. 5) について調査を実施した結果、それぞれの項目について、春、夏とも、各調査地点ともに環境基準等を下回るものでした。

調査期間:春季 平成24年 5月24日~30日

夏季 平成24年 8月18日~24日

錮 木	項目	季節			調査結果			環境基準	県内常監局	
刚生	供日	子即	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	垛児左毕	(H22草津局)	
	1 時間値の	春	0.013	0.012	0.010	0.007	-	0.1以下	_	
二酸化硫黄	最高値(ppm)	夏	0.007	0.012	0.008	0.011	-	0.15/		
$(S0_2)$	日平均値の	春	0.009	0.006	0.005	0.003	-	0.04以下	0.003	
	最高値(ppm)	夏	0.004	0.006	0.004	0.008	-	0.040	0.003	
二酸化窒素	日平均値の	春	0.013	0.021	0.015	0.015	0.037	0.04~0.06	0. 031	
(NO_2)	最高値(ppm)	夏	0.005	0.009	0.007	0.019	0.015	またはそれ以下	0.031	
	1 時間値の	春	0.066	0.086	0.106	0.082	0. 101	0.2以下	_	
浮遊粒子状物質	最高値(mg/m³)	夏	0.028	0.067	0.044	0.053	0.045	0.25		
(SPM)	日平均値の	春	0.042	0.056	0.052	0.046	0.056	0.1以下	0.071	
	最高値(mg/m³)	夏	0.014	0.031	0.025	0.023	0.022	0.15/	0.071	
降下ばいじん	(t/km ² /月)	春	4.4	5. 1	4.8	6. 5	7. 2	20 *	_	
降いないしん	(t/Kiii/月)	夏	4.0	4.4	4. 5	5.8	6.4	20 4		
塩化水素	(mpm)	春	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 **	_	
塩化小糸	(ppiii)	夏	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 **		
デノナナンの、結	(ng TEO/m ³	春	0.015	0.026	0.020	0.020	_	0.6		
ダイオキシン類	$(pg-TEQ/m^3)$	夏	0.10	0.0047	0.022	0.0070	_	0.6	_	

- 注)* 「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」による目標値
 - ** 環境庁大気保全局長通達 (環大規第136号)による目標値





悪臭

調査は、事業予定地の風上、風下の2 地点で、臭気のきつくなる夏季に実施し ました。

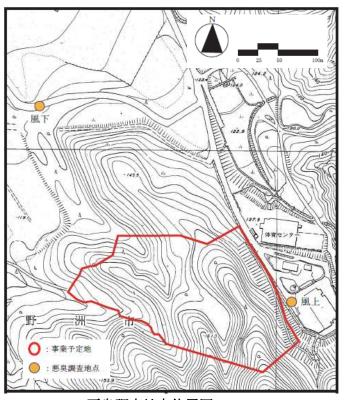
その結果、2地点ともに特定悪臭物質 は検出下限値未満、臭気指数は定量下限 値未満であり、特に現有施設から発生す る臭気も感じませんでした。



臭気指数の室内測定(官能試験)

		事業-	予定地			
区分	単位	風上	風下	規制基準		
測定実施日	-	平成24年	三8月22日	_		
測定時間	_	14:00~14:20	14:30~14:50	_		
風向	_	S	E	_		
風速	m/s	3.	. 4	_		
アンモニア	ppm	<0.1	<0.1	1		
メチルメルカプタン	ppm	<0.0002	<0.0002	0.002		
硫化水素	ppm	<0.002	<0.002	0.02		
硫化メチル	ppm	<0.001	<0.001	0.01		
二硫化メチル	ppm	<0.0009	<0.0009	0.009		
トリメチルアミン	ppm	<0.0005	<0.0005	0.005		
アセトアルデヒド	ppm	<0.005	<0.005	0.05		
プロピオンアルデヒド	ppm	<0.005	<0.005	0.05		
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	<0.0009	<0.0009	0.009		
イソブチルアルデヒド	ppm	<0.002	<0.002	0.02		
ノルマルバレルアルデヒド	ppm	<0.0009	<0.0009	0.009		
イソバレルアルデヒド	ppm	<0.0003	<0.0003	0.003		
イソブタノール	ppm	<0.09	<0.09	0.9		
酢酸エチル	ppm	<0.3	<0.3	3		
メチルイソブチルケトン	ppm	<0.1	<0.1	1		
トルエン	ppm	<1	<1	10		
スチレン	ppm	<0.04	<0.04	0.4		
キシレン	ppm	<0.1	<0.1	1		
プロピオン酸	ppm	<0.003	<0.003	0.03		
ノルマル酪酸	ppm	<0.0001	<0.0001	0.001		
ノルマル吉草酸	ppm	<0.00009	<0.00009	0.0009		
イソ吉草酸	ppm	<0.0001	<0.0001	0.001		
臭気指数	_	<10	<10	12		

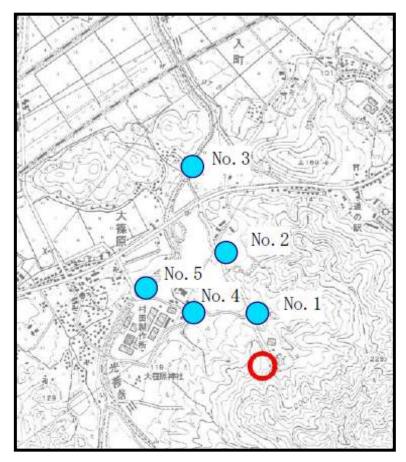
注:規制基準のうち事業予定地に適用される基準は臭気指数のみである。



悪臭調査地点位置図









測定機器 (ガスクロマトグラフ質量分析計)

水象・水質汚濁調査地点

水象調査結果

水象(流量)調査は、四季調査として春、夏に、降雨時調査として3回の調査を実施しました。 今後の敷地造成設計においては、林地の開発に伴う雨水流出量の増加に対応できるよう、敷地内に防 災調整池を設け、降雨時における河川流量の増加を抑制する計画を行ってまいります。

		項目	単 位	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5
	四 春季(平成24年5月28日実施		m^3/s	_	0.006	0.064	0.013	0.006
Ź	季	夏季(平成24年8月17日実施)	m^3/s	_	0.012	0.082	0.018	0.012
	6	流量	m^3/s	0.044	0.092	1. 272	0. 182	0.684
降	月	調査前24時間降雨量 注	mm			92.0		
雨時	7	流量	m^3/s	0.022	0.048	1. 105	0. 152	0.483
調	月	調査前24時間降雨量 注	mm			77.0		
査	9	流量	m^3/s	0.018	0.031	0. 971	0.114	0.372
	月	調査前24時間降雨量 注	mm			44. 0		

注) 気象庁HP(http://www.data.kishou.go.jp/)

降雨時調査は6月22日、7月21日、9月18日実施

No. 1地点での「-」は砂防沈砂池からの流出が見られない状況を示す。

水質調査結果

水質調査は、四季調査として春、夏に、降雨時調査として3回の調査を実施しました。

対象とした稲荷川、光善寺川は環境基準の類型が指定されていませんが、四季調査結果についてA類型の基準値と参考に比較すると生活環境項目について、環境基準を上回る場合がみられました。

対象とした2河川は、河川の上流部にあたる小河川ですが、このような河川においては流量が少ないことにより、環境基準を上回る例が見られることがあります。

生活環境項目の結果

調査日:春季 平成24年 5月28日

夏季 平成24年 8月17日

項目	単位				春季	 夏季調益 	監結果(範	.囲)				環境基準(A類型)
受日	平匹	No. 1		No. 3	2	No	. 3	N	o. 4	N	Vo. 5	参考
浮遊物質量 (SS)	mg/L	3 ~	4	2 ~	3	5 ~	~ 6	2	~ 2	1	~ 2	25mg/L以下
水素イオン濃度	рΗ	7.1 ~	7.3	7.3 ∼	8. 2	7.2 ~	~ 7.8	7.0	~ 7.2	7. 1	~ 7.9	6. 5以上8. 5以下
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	3.2 ∼	3.4	2.8 ~	3.6	5.8 ~	~ 6.8	1.0	~ 1.2	1.4	~ 1.6	2mg/L以下
溶存酸素量 (DO)	mg/L	8.2 ~	8.2	8.1 ~	8. 5	7.7 ~	~ 8.2	8.3	~ 8.3	7. 9	~ 8.0	7.5mg/L以上
大腸菌群数	MPN/100mL	1,700 ∼	26,000	3,200 ∼	11,000	7,900 ~	~ 22,000	2, 100	~ 7,200	3, 100	\sim 9,400	1,000MPN/100mL以下
全亜鉛	mg/L	0.010 ~	0.012	0.010 ~	0.025	0.031 ~	~ 0.042	0.014	~ 0.020	0.017	~ 0.022	0.03mg/L以下

健康項目等の結果

調査日:春季 平成24年 5月28日

夏季 平成24年 8月17日

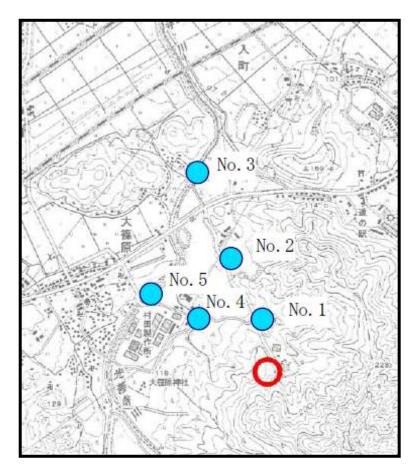
			春季。	 夏季調査結果(最) 	大値)	-	学 平成24年 8月17日 環境基準
項目	単位	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	参考
カドミウム	mg/L	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01mg/L以下
全シアン	mg/L	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.01mg/L以下
六価クロム	mg/L	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02	0.05mg/L以下
砒素	mg/L	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.01mg/L以下
総水銀	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005mg/L以下
アルキル水銀	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	検出されないこと
ポリ塩化ビフェニル (PCB)	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.02mg/L以下
四塩化炭素	mg/L	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.1mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002mg/L以下
チウラム	mg/L	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	0.006mg/L以下
シマジン	mg/L	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.003mg/L以下
チオベンカルブ	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.02mg/L以下
ベンゼン	mg/L	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01mg/L以下
セレン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.01mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	1.4	1.4	3.8	1. 2	1.8	10mg/L以下
ふっ素	mg/L	< 0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.8mg/L以下
ほう素	mg/L	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	1mg/L以下
1,4-ジオキサン	mg/L	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.05mg/L以下
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.40	0.081	0.11	0.052	0.087	1pg-TEQ/L以下

降雨時の調査結果

		項目	単 位	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5
	6	浮遊物質量 (SS)	mg/L	44	30	25	28	28
降	月	調査前24時間降雨量 *	mm			92.0		
雨時	7	流量	m^3/s	42	26	16	20	22
調	月	調査前24時間降雨量 *	mm			77. 0		
查	9	流量	m^3/s	34	26	11	15	16
	月	調査前24時間降雨量 *	mm		·	44.0		

注) 気象庁HP(http://www.data.kishou.go.jp/) 調査は6月22日、7月21日、9月18日実施









測定機器 (高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計)

底質調査地点

夏季までNo.1 地点 (現・野洲クリーンセンターに近い砂防沈砂池) において、ダイオキシン類が高濃度となっていました。

含有試験項目の結果

調査日:春季 平成24年 5月28日 夏季 平成24年 8月17日

項目	単位				春季	・夏季調査	E結果(釯	i囲)			
- 現日	- 早位	No. 1		No. 2		No.	3	No. 4		No. 5	
化学的酸素要求量	mg/g	11.7 ~	12.5	2.3 ~	2.5	38.8 ~	43.3	0.7 ~	0.8	0.8 ~	1.0
硫化物	mg/g	1.12 ~	1. 27	0.22 ∼	0.37	4.69 ~	5.47	0.06 ~	0.07	0.07 ~	0.09
強熱減量	%	3.45 ∼	3.82	1.29 ∼	2.04	12.0 ~	13.5	0.66 ∼	0.68	0.56 ∼	0.79
全窒素	mg/kg	692 ∼	770	154 ∼	188	4,800 ~	5, 140	78.5 ~	90.2	71.8 ~	89.6
全燐	mg/kg	454 ∼	475	307 ∼	320	726 ~	768	156 ∼	190	125 ∼	144
カドミウム	mg/kg	0.45 ∼	0.52	0.21 ∼	0.27	0.88 ~	0.92	<0.2 ∼	<0.2	<0.2 ∼	<0.2
鉛	mg/kg	8.57 ~	9.88	3.24 ∼	3.64	41.7 ~	42.3	2.20 ~	2.36	2.12 ~	2.44
銅	mg/kg	11.2 ~	11.7	8.9 ~	9. 5	110 ~	126	1.6 ∼	2.1	1.5 ∼	2.3
亜鉛	mg/kg	76.2 ~	89.4	42.6 ∼	53. 9	694 ~	737	28.5 ∼	33.5	28.7 ∼	30.8
砒素	mg/kg	1.5 ~	2.3	1.2 ∼	1.4	3.9 ~	4.4	0.7 ~	0.8	0.8 ~	0.9
総水銀	mg/kg	<0.01 ∼	<0.01	<0.01 ∼	<0.01	0.01 ~	0.01	<0.01 ∼	<0.01	<0.01 ∼	<0.01
鉄	mg/g	38.6 ∼	39.4	35.5 ∼	38.7	42.4 ~	44.0	32.3 ∼	35.7	33.4 ∼	34.6
マンガン	mg/kg	114 ~	121	92.4 ~	93.7	155 ~	170	54.6 ~	63.2	65.2 ~	78.5
ダイオキシン類	pg-TEQ/g	89 ~	110	0.64 ∼	6.7	7.9 ~	31	2.1 ~	2.2	0.59 ~	3.8

注) 底質中のダイオキシン類に係る環境基準:150pg-TEQ/g

溶出試験項目の結果

調査日:春季 平成24年 5月28日 夏季 平成24年 8月17日

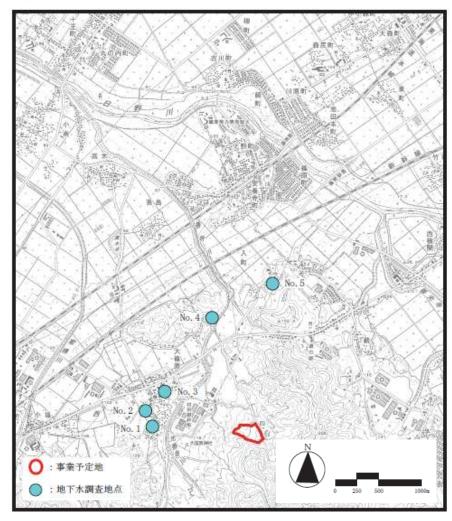
-T -	27711		春季•夏季調査網	店果(最大値(水素体		平成24年 8月17日
項目	単位	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5
水素イオン濃度	рΗ	7.6 ~ 7.7	7.3 ~ 7.5	7.7 ~ 7.9	7.2 ~ 7.3	7.4 ~ 7.5
カドミウム	mg/L	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001
全シアン	mg/L	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1
鉛	mg/L	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
六価クロム	mg/L	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02
砒素	mg/L	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
総水銀	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005
アルキル水銀	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005
ポリ塩化ビフェニル (PCB)	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005
ジクロロメタン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
四塩化炭素	mg/L	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002
1,2-ジクロロエタン	mg/L	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006
トリクロロエチレン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
テトラクロロエチレン	mg/L	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002
チウラム	mg/L	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006
シマジン	mg/L	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003
チオベンカルブ	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
ベンゼン	mg/L	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001
セレン	mg/L	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
フッ素	mg/L	0.27	0. 22	0.46	0.09	0.09
有機リン	mg/L	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1

◇砂防沈砂池における環境基準を超過した底質ダイオキシン類の対策について

砂防沈砂池の底質ダイオキシン類の対策は、野洲市底質ダイオキシン類対策検討委員会の意見を踏まえ、汚染原因の究明、発生源の対策、汚染底泥の除去及び事後モニタリングなどの一連の対策を進めています。



<u>地下水</u>







地下水位の測定状況

地下水調査地点

平成24年5月より1年間の予定で、5箇所の井戸の地下水位を測定しています。 現在のところ、それぞれの井戸ともに大きな地下水位の変動は見られていません。 なお、冬季には、それぞれの井戸における水質を測定予定です。 今後は、造成工事の開始後もモニタリングを継続してまいります。

地下水位調査の結果

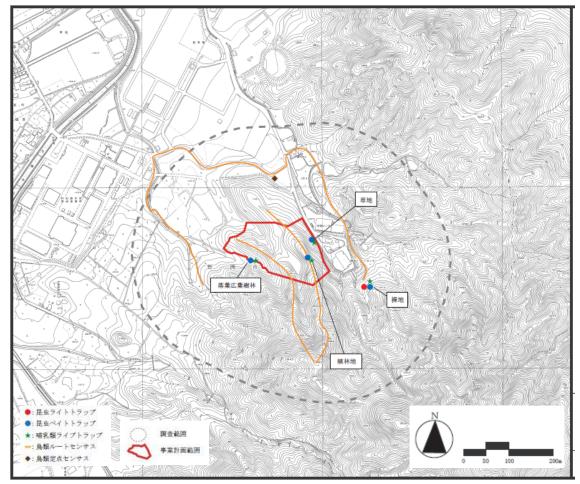
単位: m

	月	No. 1			No. 2			No. 3				No. 4		No. 5		
	Л	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	5	1.40	1. 13	1. 31	1.39	1. 12	1.26	0.60	0.32	0.51	2.04	1.55	1. 94	2.98	2.60	2.72
	6	1.51	1.02	1. 28	1.62	0.94	1.22	0.68	0.40	0.55	2.03	1.59	1. 91	3.31	2.50	2.79
	7	1.55	1.18	1. 43	1.58	1. 29	1.44	0.70	0.52	0.61	2. 59	1.75	2. 37	3.23	2. 68	2.80
	8	1.54	1.03	1. 31	1.41	1.06	1.21	0.71	0.50	0.60	2. 51	2.09	2. 38	3.26	2. 61	2.73

注)水位は、各調査井戸のGL を基準



<u>動物</u>



動物調査範囲

春季から夏季までの調査において、県レッドデータブック希少種など、哺乳類で1種、鳥類で25種、爬虫類で2種、両生類で4種、昆虫類で2種の注目種の生息を確認しました。

これらの種は、いずれも事業予定地周辺では普通にみられる種であり、今のところ事業の実施に問題はないと考えていますが、動物保護の観点から、敷地内でこれら種の生息環境の創出可能性について検討を行ってまいります。





ニホンマムシ



トノサマガエル

注) 写真掲載は、事業予定地周辺で 普通にみられる種で、その他に巣 が確認されたものなど P13 で一 覧掲示。

哺乳類の注目すべき種一覧

No	目	431	種	春季	夏季	事業予定地		重要種選定基準						
No.		17			友子	内	外	I	II	III	IV	V		
1	ネズミ	ネズミ	カヤネズミ		•		•				希少			
合計	1目	1科	1種	0	1	0	1	0	0	0	1	0		

鳥類の注目すべき種一覧

No.	B	科	種	鳥類	調査	猛禽類	事業	予定地			重	要種選定	基準	
NO.	Ħ	1 -17	性	初夏季	秋季	調査	内	外	I	II	III	IV	V	VI
1	コウノトリ	サギ	チュウサギ	•				•			NT	希少		準絶(繁殖)
2	タカ	タカ	ミサゴ			•		•			NT	希少		危惧 (繁殖)
3	Ī		ハチクマ				•	•			NT	危機		危惧 (繁殖)
4	I		オオタカ							国内	NT	希少		準絶(繁殖)
5	I		サシバ								VU	希少		危惧 (繁殖)
6		ハヤブサ	ハヤブサ							国内	VU	危機		準絶 (繁殖)
7	ツル	クイナ	バン									希少		
8	チドリ	チドリ	コチドリ									希少		準絶 (繁殖)
9			ケリ								DD			
10	カッコウ	カッコウ	ツツドリ									希少		準絶(繁殖)
11			ホトトギス									希少		準絶 (繁殖)
12	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ									希少		準絶 (繁殖)
13	キツツキ	キツツキ	アオゲラ		•									準絶 (繁殖)
14			アカゲラ											準絶 (繁殖)
15	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ								VU	希少		準絶 (繁殖)
16		ツグミ	クロツグミ									希少		準絶 (繁殖)
17	<u> </u>	ウグイス	ヤブサメ	•								希少		
18			オオヨシキリ									希少		準絶 (繁殖)
19	<u> </u>		メボソムシクイ		•			•				希少		準絶 (繁殖)
20	<u> </u>		センダイムシクイ									希少		準絶 (繁殖)
21	1	ヒタキ	キビタキ	•			•					希少		準絶 (繁殖)
22	1		コサメビタキ									希少		
23	1	カササギヒタキ	サンコウチョウ	•			•	•				希少		準絶 (繁殖)
24	1	ホオジロ	アオジ		•									準絶 (繁殖)
25		ムクドリ	コムクドリ									希少		準絶 (通過)
合計	8目	15科	25種	8	5	19	3	25	0	2	8	21	0	21

爬虫類の注目すべき種一覧

No.	н	4 3	衽	春季	夏季	事業予定地		重要種選定基準						
NO.	П	件	種	个	友子	内	外	I	П	Ш	IV	V		
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	•			•			NT				
2	有鱗	クサリヘビ	ニホンマムシ	•	•		•				要注			
合計	2目	2科	2種	2種	1種	0	2	0	0	1	1	0		

両生類の注目すべき種一覧

No.	B	科	種	春季	夏季	事業	予定地	重要種選定基準						
INO.	Ħ	什	性	甘 学		内	外	I	II	Ш	IV	V		
1	無尾目	アカガエル	タゴガエル	•	•	•	•				要注			
2			ニホンアカガエル	•	•		•				要注			
3			トノサマガエル	•			•			NT	要注			
4		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	•			•				要注			
合計	1目	2科	4種	4種	2種	1	4	0	0	1	4			

昆虫類の注目すべき種一覧

No.	н	科	種	春季	初夏季	夏季	事業予定地		重要種選定基準					
INO.	Ħ	17		事 子	勿及子	友子	内	外	I	П	Ш	IV	V	
1	カメムシ	セミ	ハルゼミ	•				•				その他		
2	ハチ	スズメバチ	オオスズメバチ	•				•				その他		
合計	2目	2科	2種	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	

- 注)注目すべき種選定基準
- 注目すべき種選定基準

 I:文化財保護法により天然記念物に指定されている天然記念物、特別天然記念物(1950)
 特:特別天然記念物、国:国指定天然記念物

 II:総誠のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律における国内希少野生動植物種(1992)
 国内:掲載種

 III:レッドリスト (2012年 環境省) における対象種

 EX:総誠、EW:野生絶誠、CX:総誠危惧 I A類、EN:総誠危惧 I B類、VU:総誠危惧 I 類、NT:準絶誠危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群

 IV: 滋賀県で大切にすべき野生生物哲学生物滋賀県レッドデータブック(2010、滋賀県)

 絶滅:絶滅種、危惧・絶滅危惧種、危機・絶滅危機増大種、希少・希少種、要注:要注目種、分布:準絶滅危惧、その他:その他重要種

 VI:近雲川の野生動植物をの共生に関する条例(2007、滋賀県)

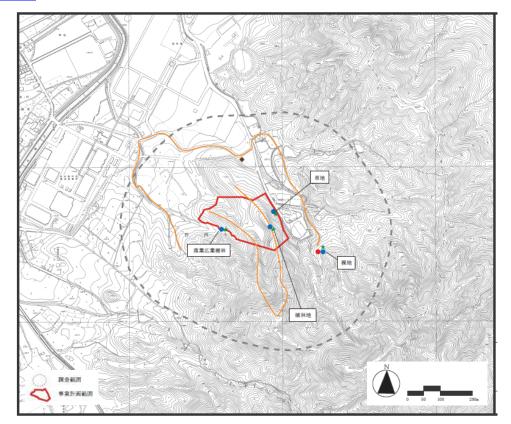
 指定:指定希が野生生物動植物種

 VI:近畿地区鳥類レッドデータブック(2002、京都大学学術出版会)

 危機:危機的絶滅危惧種、危惧:絶滅危惧種、準絶:準絶滅危惧種、要注:要注目種、特:特になし

 13 -





植物調査範囲

春季から夏季までの調査において、ヒメコヌカグサ(環 境省レッドデータリスト準絶滅危惧種)など5種の注目種の生育 を確認しました。

これらの種は、いずれも事業予定地外でみられたもので あり、今のところ事業の実施に問題はないと考えています。



トウカイコモウセンゴケ

植物の注目すべき種一覧

No.	綱	科	種	春季	夏季	事業	予定地		重要	種遺	異定基準	
NO.	州町	117	1里	个子	友子	内	外	Ι	Π	${\rm I\hspace{1em}I\hspace{1em}I}$	IV	V
1	双子葉植物	モウセンゴケ	トウカイコモウセンゴケ	•	•		•				分布	
2		クマツヅラ	コムラサキ		•		•				その他	
3		キク	サワシロギク		•		•				その他	
4	単子葉植物	イネ	ヒメコヌカグサ	•			•			NT	その他	
5		ラン	コバノトンボソウ		•		•				その他	
合計	2綱	5科	5種	2	4	0	5	0	0	1	5	0

- 注)注目すべき種選定基準
 - I:文化財保護法により天然記念物に指定されている天然記念物、特別天然記念物(1950)

 - 国内:掲載種

 - 国 17: 140W(種 Ⅲ: レッドリスト (2012年 環境省) における対象種 EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 I A類、EN: 絶滅危惧 I B類、W: 絶滅危惧 I 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群 IV: 滋賀県で大切にすべき野生生物野生生物滋賀県レッドデータブック(2010、滋賀県) 絶滅: 絶滅種、危惧: 絶滅危惧種、危機: 絶滅危機増大種、希少: 希少種、要注: 要注目種、分布: 準絶滅危惧、その他: その他重要種 V: ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例 (2007、滋賀県)

 - 指定:指定希少野生生物動植物種



生態系(猛禽類)

事業予定地及び周辺地域における生態系上位種 の猛禽類を対象とし調査を実施しています。

春季から夏季までの調査ではオオタカ、ミサゴ、 ハチクマ、サシバ、ハヤブサの 5 種の猛禽類が確 認されました。

その生息状況について、動物保護の観点から詳細なご報告は控えさせていただきますが、ミサゴ、ハチクマ、サシバ、ハヤブサの4種は繁殖や探餌に関する行動などは確認されませんでした。

一方、オオタカについては営巣木を確認していますが、事業予定地から相当の距離があります。今のところ事業の実施に問題はないと考えていますが、今後はオオタカについての調査を追加して、詳細な行動を把握するよう努めてまいります。





<u>景 観</u>

事業予定地周辺の9地点から事業予定地方向の写真撮影を行っています。

下の写真は、事業予定地への進入路からの現況の眺望、将来の眺望(フォトモンタージュ)を示します。



将来の眺望 (フォトモンタージュ)



おわりに

以上は、生活環境調査での春・夏季の調査結果をとりまとめたものです。

事業予定地周辺における環境は、現在、砂防沈砂池の底質中のダイオキシン類の問題について、現センターでは施設内の各所において改善を図り、砂防沈砂池では除去工事を施工していますが、その他の環境項目においては問題はなく、事業の進捗に影響を与える事項は見当たりませんでした。

引き続き秋・冬季調査を実施し、通年の調査結果を踏まえたうえで、予測と影響分析を行い、25 年 5 月に生活環境影響調査書としてとりまとめる予定です。



野洲クリーンセンター・野洲クリーンセンター整備室 〒520-2313 滋賀県野洲市大篠原3333-2 TEL 077-588-0568 FAX 077-586-2150

調査会社

株式会社 日建技術コンサルタント 〒577-0012 東大阪市長田東2-4-45 TEL 06-6744-7252 FAX 06-6744-7089